

# マイナス改定を建議

## 協会 診療報酬の引き下げ阻止へ 保険で良い歯科署名を力に

2016年度予算案の編成に向け、財務相の諮問機関・財政制度審議会は11月24日、診療報酬のマイナス改定を盛り込んだ建議をまとめ、同様に提出した。年間約1兆円と言われる社会保障費の自然増については、5000億円程度に圧縮するよう求めている。協会はマイナス改定を阻止し、診療報酬の改善を実現するために、「保険で良い歯科医療の実現を求める請願」署名への協力を呼びかけている。

財政審は、診療報酬の本体部分と物価・賃金の動向を比較し、本体が高止まりしている」と主張。現政権の経済政策で賃金・物価の上昇が見込まれるとしても、足下の状況を考えれば本体部分の「一定程度のマイナス改定が必要と考えられる」と言及した。

建議では薬価のマイナス改定が考慮されておらず、一方的に診療報酬の引き下げを求める偏った内容になっている。小泉政権時代に強行された連続マイナス改定が「医療・歯科医療崩壊」を引き起こしたことへの反省もない。

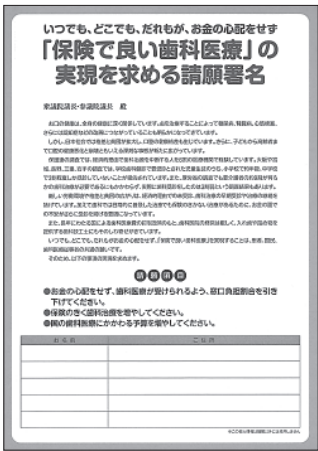
高齢者の増加に伴う社

会保障費の自然増では、安倍政権の骨太の方針に沿って大幅な削減を強

調。診療報酬改定などを通じて実行していくことを求めた。協会は、現在の歯科医

### 署名 「保険で良い歯科」

#### 12月末までに協会へ



「保険で良い歯科医療の実現を求める請願」署名（今号同封）1月の通常国会へ提出し、診療報酬のマイナス改定阻止へ、ひご協力をお願いします。お手元に署名済みの用紙がありましたら、12月末までに協会へ送りください。署名用紙の追加は事務局までご連絡ください。

### 知事・市長ダブル選挙 小澤理事長が談話発表



11月22日の大阪府知事・大阪市市長選挙の結果を受け、小澤理事長は11月23日、談話を発表しました。全文は次の通り。

11月22日の大阪府知事・大阪市市長選挙の結果を受け、小澤理事長は11月23日、談話を発表しました。全文は次の通り。

療、救命救急センター、住吉市民病院などの切り捨てに象徴されるように、地方自治の原点である「住民福祉の増進」が乱暴に投げ捨てられてき

## 府民との矛盾が深刻化 医療の充実へ力尽くす

とが大切」との決定を行いました。今回の選挙にあたり市内の全ての地区役員会で「維新政治ノー」の決定がなされました。これをを受け、理事会では活動方針に基づいて「維新政治」に終止符を打つこと

は40万6595票（同38・49%）を獲得しました。が、残念ながら及びませませんでした。選挙結果は、大阪の深刻な行き詰まりの打開を願いつつも、「維新」と「都構想」に善を願う府民・市民との矛盾をいっそう深刻化させることになっています。協会は、この間築いてきた多くの住民・団体・政党との協力・共同をさらに大きく広げ、医療・福祉の充実を求める運動に力を尽くし、府議会・市議会へ働き掛けていきます。日々地域医療に邁進されている会員の先生方、また府民の生活や思いに寄り添った府政・市政を実現するために奮闘する決意です。今後も協会の運動への協力をお願い申し上げます。

## 「技工士の3割が無休」

### 11・19国会内集会で調査結果を報告



診療報酬のプラス改定を求める国会内集会で  
歯科技工士の窮状を訴える江原豊氏（右）  
＝11月19日、参議院議員会館

療危機を打開するために、診療報酬のプラス改定は不可欠との立場で、「保険で良い歯科」署名▽診療報酬の引き上げを求める会員署名——に取り組んでいる。12月末までに署名を全国保険医団体連合会に結集し、国会に働き掛ける予定にしている。

結果を紹介しながら、低い歯科診療報酬、補綴関連の技術料の引き上げを訴えた。集会には、民主・共産両党から7人の国會議員が挨拶に立った。集会の最後にプラス改定を求めるアピールを採択した。

集会後、厚生労働省へ要請を行い、医療現場の実態を訴え、診療報酬改善を求める要請書を出した。江原理事は、クラウン・ブリッジ管理料の2年間の縛りは「エビデンスが理解出来ない。廃止して、補綴技術料全体の底上げをする」よう訴えた。また義歯製作について、難易度などが適切に反映していないとして適正な評価を求めた。

厚労省保険局医療課企画法令第一係長が対応し、「医療現場の実態に合った形で評価されるようにやって行きたい」と話した。

緊急行動には全国から200人が参加した。

ファイバーポスト

矢谷博文氏を講師に  
1月に生涯研修講座

臨床・学術部は2016年1月に保険適用される「ファイバーポスト」をテーマにした生涯研修講座を1月17日、M&Dホールで開く。講師は、矢谷博文氏（大阪大学大学院統合機能口腔科学教授）が務める。参加申し込みは協会事務局まで。

生涯研修講座「ファイバーポストについて」

【日時】1月17日（日）午前10時～午後1時

【会場】M&Dホール 【定員】100人

【会費】会員3千円、会員院所未入会勤務医1万円

今日の数字

40.0%

労働者に占める非正社員の割合。初めて4割に達した。11月4日発表の厚労省調査から。

歯界

女性の活躍が目覚ましい。自然科学分野でも、女性の著作が多い。ところが著者略歴紹介の欄で男性と記述が違う。男性は何年どこで生まれたかから始まり、職歴や業績、著作が紹介される。女性は生年の記載が無いケースが少なくない。

年齢が分かんなければ著者の時代背景が分からない。科学技術の画期的な進歩の節目の時に、子どもだったのか、学生だったのか、政治状況に敏感な年齢だったのかも分からない。なかには女性であるために不当な差別を受けて研究に従事した体験が吐露されてお

り、そのことから時代が分かる。現在では女性が現場の研究者であるだけでなく、プロジェクト・チームを主宰して若手を育成する立場の人も多い。マダム・キュリーやDNA構造のX線構造解析写真の撮影に成功しながら38歳の若さで夭折したロザリンド・フランクリンは苦闘したのか、飄々（ひょうひょう）と研究を楽しんだのかも興味がある。